

令和5年度 長野市連携中枢都市圏ビジョン懇談会 要旨

日 時 令和5年11月21日（火）15:30～16:45

場 所 長野市役所第一庁舎5階 庁議室

出席者 別紙名簿のとおり

資料1 長野地域連携中枢都市圏 進捗状況報告書 2022（令和4）年度

1 開会（下平企画政策部長）

2 あいさつ（西澤副市長）

3 懇談

(1) 長野地域スクラムビジョンの進捗状況について

○事務局

資料1について説明

○委員

公共交通利便性向上事業のSuica移行は期待している。順調に進んでいるのか。

○事務局

令和7年3月のサービス開始に向け、順調に進んでいる。

(2) 意見交換

○委員

基本目標の経済の成長は、コロナも回復傾向にあり、今後期待できる。企業の人手不足により廃業も目立ってきた。人口減少や円安により海外からの人材も期待できず、一概に解決策がない。私どもも協議会に参加して取り組んでおり、圏域で一丸となって取り組んでいきたい。

○西澤座長

個々に行うよりも一体となった方が効果がある。職員採用も連携して実施しており、飯綱町の副町長からは効果があったとのお話をいただいている。

○委員

観光分野でもホテルでは85%くらいが人手不足である。タクシーも運転手不足で捕まらないといった苦情をいただいている。インバウンドとコンベンションを増やすため、連携中枢都市として戦略を立てて一緒に取り組みたい。

○委員

ワーケーション事業など、KPIがマイナスになっている事業がいくつかあるが、それらの事業とワーケーションを組み合わせることで伸びる余地がある。次のステップで検討をしてはどうか。

○事務局

実施方法は検討したい。

○委員

オープンデータ事業は、これからの施策展開が必要になるが、KPIの研究会5年で5回

は少ないと感じる。

○事務局

住基情報から個人情報を除いたものを民間企業に公開している。オープンデータを活用し、DXの推進などにより人手不足の解消などに繋げていただきたいと考えている。

○委員

外国人労働者も増えてきたが、技術を学ぶと3年くらいで帰国して定着しない。脱炭素事業のEVも普及してきたが、購入費の補助があると更に進む。また、充電設備が少ないものの課題のため公共施設に設置は出来ないか。

○事務局

長野市では電気自動車購入に1台当たり15万円、燃料電池車に30万円を補助している。充電設備は、市役所第一庁舎、戸隠キャンプ場、松代荘、真田宝物館、旅の駅鬼無里に設置している。それぞれの市町村で行っている施策は、担当者会議で情報を共有し、良いものは圏域に拡大していく。

○委員

文化芸術連携事業の各ホールの利用の推移には興味があり注視したい。おしごとなのは、説明のあった事業の中で唯一KPIの評価が△だった。シンボリックな事業なので高評価につなげてほしい。スクラムビジョンの長野市の課題は何か。人口の目標値を2040年におくからには、第3期、第4期としても取り組まれるのか。第3期ビジョンの策定スケジュールは。

○事務局

おしごとなのは、登録しなくても見れるため、登録者が伸び悩んでいる面もある。スクラムビジョンの課題としては、長野市の事業を圏域で活用している事業が多いため、長野市の事情により決まってしまう面がある。国の補助を連携市町村でもっと活用できるよう検討する必要がある。スクラムビジョンは国が制度として継続している間は継続するが、それがなくても圏域全体で取り組む必要はあると考えている。第3期のスケジュールはスタートする2年くらい前から策定作業に入る。

○委員

保育の広域利用は、母親の職場復帰に大切な事業であるが、連携事業として知らない人も多いのではないか。ファミリーサポート事業も務めている長野市で登録できることを知らなかった。スクールカウンセラー事業ですが、不登校は様々な要因があり対応が難しいが、連携することで効果があると良い。

○西澤座長

周知が大切であり、担当部局に伝える。

○委員

観光人材も不足している中で、色々な物をシェアする取組が必要。ホテル・旅館でも板長が不足しており、長野市でセントラルキッチンを作るなどの連携ができないか。また、利便性の高いところに人材は集まる。山田牧場もバスがなく連携でサポートできないか。

○事務局

交通は日本中で課題になっている。国でもライドシェアを検討している。また、SuicaもJR在来線に拡大される。今後、MaaSなど基幹系統と2次交通を組み合わせた検討も必要になると考えている。

○委員

ジビエの中条加工施設は、圏域を含めて活用をお願いしたい。鹿被害は県全体で年間4万頭捕獲しないと頭数が増加し被害が増えるとされているが、現在は年間2万頭の捕獲である。捕獲数も圏域で連携して取り組んでいただければありがたい。林業界でも人材確保は課題になっているが、長野市のフォレストワーカー補助金を活用することで、安心して雇用の確保ができた。新規採用3名全て女性、中途採用3名の計6名を雇用でき、うち3名は移住者であった。他の市町村にも広がると良い。SDGs関係ですが、木材の利用が循環型社会や地域での再生資源活用につながるため、重点的に取り組んでいただきたい。長野市でも色々な施設に市産材を採用していただいております、圏域全体に広がれば良い。

○西澤座長

有害対策、環境保全是全市町村で喫緊の課題になっているため、連携して取り組んでいきたい。

○委員

移住定住の相談件数がKPIになっているが、相談後、移住に繋がらず、他地区を選んだ人の理由も重要なデータとなる。

○事務局

移住した人は把握しているが、来なかった人のデータはなく、参考としたい。

4 閉会

以上